

2007年9月28日

米国のフッ素化学品生産拠点（ベイヨン工場）の閉鎖を決定

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、2005年から3年間の中期経営計画“JIKKO-2007”の重点施策の1つとして北米地域の収益改善を掲げ、フッ素化学事業についても製造設備更新による生産性向上等の施策を実施してきましたが、今般、2007年12月末をもって、AGCケミカルズ・アメリカ社ベイヨン工場でのフッ素化学品の生産を停止し、同工場を閉鎖することを決定しました。

当社は、化学事業の成長分野であるフッ素樹脂事業のグローバル展開を図るため、1999年にICI社の英国及び米国のフッ素樹脂事業を買収、その後、英国に旭硝子フロロポリマーズU.K.社（現AGCケミカルズ・ヨーロッパ社）を、米国に旭硝子フロロポリマーズUSA社（現AGCケミカルズ・アメリカ社）をそれぞれ設立し、フッ素化学事業を展開しています。

AGCケミカルズ・アメリカ社は、現在、フッ素樹脂PTFE及びフッ素系溶剤AK-225の製造・販売拠点であるベイヨン工場（ニュージャージー州ベイヨン）、フッ素樹脂コンパウンドを行うソーンデル工場（ペンシルベニア州ソーンデル）並びにフッ素化学品の営業・サービス拠点であるテクニカルセンター（ペンシルベニア州エクストン）の3拠点を有しています。

当社は、フッ素化学事業において、これまでも事業の選択と集中を実施してきましたが、米国でのPTFE事業の収益悪化を受け、米国におけるフッ素化学事業の戦略を大幅に見直し、ベイヨン工場でのPTFE、AK-225の生産を停止、同工場を閉鎖することとしました。一方、ソーンデル工場においては、フッ素樹脂コンパウンドの生産を継続するとともに、エクストンのテクニカルセンターでのサービス機能を向上させ、日本、英国の生産拠点で製造した、高機能なフッ素樹脂「フルオン®ETFE」やフッ素ゴム「アフラス®」などの輸入販売を強化します。

当社は、今後も日本、英国、米国などグローバルに展開するフッ素化学事業の開発・製造・販売体制の最適化を図り、米国での同事業の収益改善に努めるとともに、お客様により高品質なソリューションを提供していきます。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子㈱広報・IR室長 川上 真一

（担当：齋藤 TEL：03-3218-5509 E-mail：info-pr@agc.co.jp）

<ご参考>

1 . A G Cケミカルズ・アメリカ社の概要

- (1) 所在地 米国 ニュージャージー州
- (2) 代表者 末廣 眞澄
- (3) 設立年月 2 0 0 4 年 1 月 (A G A ケミカルズと A G C フロロポリマーズ U S A が合併)
- (4) 事業内容 各種フッ素化学品の製造・販売
- (5) 資本金 7 5 . 1 百万 U S ドル
- (6) 出資比率 A G C アメリカ 1 0 0 % (A G C アメリカは旭硝子の 1 0 0 % 子会社)
- (7) 生産拠点 ベイヨン工場、ソーンデール工場
- (8) 従業員数 2 7 0 名 (2 0 0 7 年 9 月末時点)

2 . A G Cケミカルズ・アメリカ社ベイヨン工場の概要

- (1) 所在地 米国 ニュージャージー州
- (2) 事業内容 フッ素樹脂 P T F E 、 フッ素系溶剤 A K - 2 2 5 の製造・販売
- (3) 敷地面積 約 1 4 万 m²
- (4) 従業員数 1 5 7 名 (2 0 0 7 年 9 月末時点)

3 . P T F E

耐薬品性・耐熱性に優れたフッ素樹脂で、シート、チューブ、テープ等に加工され、半導体関連製品・自動車部品などに使用される。

4 . A K - 2 2 5

不燃性、洗浄力、乾燥性に優れたフッ素系溶剤で、樹脂部品洗浄、希釈溶媒などに使用される。

5 . フッ素樹脂コンパウンド

ベースのフッ素樹脂に添加剤を混ぜ合わせ、新しい機能を持たせた成形前材料のこと。